

第1回新県民体育館整備等基本計画検討会 議事要旨

日 時：令和7年7月4日（金）15:00～17:00 ※14:30～県民体育館内外を視察
場 所：高知県立県民体育館 1階 大会議室
出 席：委員11名中9名が出席 ※原田アドバイザー出席
出席委員：刈谷委員、寛藤委員、坂本委員、玉乃井委員、久川委員、古谷委員、前田委員、丸委員、宮地氏（森委員代理） ※高岡委員、渡邊委員が欠席
⇒ 互選の結果、委員長に前田委員、委員長指名で副委員長に丸委員が決定

議 事：

- (1) 新県民体育館の整備等に関する検討内容とスケジュール
- (2) 基本計画の策定に向けた当面の動き
 - ・ ニーズ調査
 - ・ 候補地調査
 - ・ 武道館を含めた再整備

1 開会

<委員長挨拶>

- ・ 昨年度の「県立スポーツ施設のあり方検討会」の方向性を基本計画に反映していく。今日が初回ということで非常に重要な会になる。
- ・ 検討会では、単なる建て替えということではなく、まちづくりや県全体の幅広い波及効果を考えていくべきである。
- ・ スポーツ庁からも「スタジアム・アリーナ改革ガイドブック<第3版>」が更新され、そこにもまちづくりやエリアマネジメントの議論がされており、一読をお願いする。

2 議事

- (1) 新県民体育館の整備等に関する検討内容とスケジュール
⇒ 質問、意見なし

- (2) 基本計画の策定に向けた当面の動き

(ニーズ調査)

<丸副委員長>

- ・ P4のスポーツ競技団体は県内のみが対象か？
⇒ 共同企業体（以下「JV」という。）：県内のみ。
- ・ 高知県は観光に強く、スポーツ合宿にも強い。四国全域や西日本もしくは台湾がターゲットのメインになるのではないかと思う。
⇒ JV：承知。

<原田AD>

- ・ アンケートの回答者は現在の県民体育館のイメージで回答してしまう。新県民体育館

は想像を超える施設となる可能性があるため、コンサートやeスポーツなど今までの県民体育館ではできなかった将来的に行われるイベント等を見せながら、5段階評価で答えていただくなど、ニーズの調査ができればいいのではと思う。

⇒J V：アンケートの際には、配付資料を準備する。県外にも調査するので、高知県の立地や概要、スポーツ施策や観光施策等の情報も載せる予定。さらに、他県のアリーナの事例を紹介しながらイメージを持っていただく工夫を実施する。

<坂本委員>

・今回の調査の中で重要なポイントはどこか

⇒J V：P 5の業界動向は重要になってくる。高知県で5,000人の施設ができたときにポテンシャルを業界はどう捉えるのかがポイント。一般的にはコンサート＝1万人という声を聞くが、高知県という立地で、機材の輸送費等もかかる中でどういう条件なら需要があるのか等聞き出せたらと考えている

・自分の研究の時に仮説を立てて、よく調査をする。イベント関係においても、フィードバックされるキャパをイメージし、もう少し踏み込んで各団体から具体的な施設の事例を聞き出すと仮説との乖離を縮めることができるのではないか。現状の把握は、今後の設備計画に反映させることは難しいと思うので、今後に繋がるような内容に重視を。

<刈谷委員>

・原田アドバイザーも言われたように、アンケートの回答者は現在の県民体育館のイメージで回答してしまう。アンケートでは新たな施設のイメージを絵などで示せると回答しやすい。

<前田委員長>

・競技団体からは大規模大会などこれから誘致したい大会等があれば拾いたい。

<玉乃井委員>

・コンサートを主催する立場でいうと、Bリーグの関係で全国にたくさんの5,000人規模のアリーナが建設されている。アリーナツアーで使用されるステージセットを作ると1,500席から2,000席のスペースを使用するので、5,000席の施設の観客席は3,500席しか用意できなくなる。コンサートは地域のエリアで決めることが多いので、そうなるとう国は香川のあなぶきアリーナが10,000席ということで現状四国では大きい存在になる。

<久川委員>

・5,000席は正直コンサートでは小さい。また、施設側で用意する設備は基本的に不要と考えている。式典や災害時に使用する最低限のもので十分で演出的な設備は不要。コンサート主催側は施設の設備は基本的に使わない。スポーツ利用に特化するにしてもイ

ベント利用に特化するにしても重要なのは床の形状。仮にトラックがメインフロアに入れないとすれば、11 tトラック 2～3台が横並びに置けるような巨大な搬出口とトラックが転回できるスペースが重要。床の共用はできないので、スポーツとイベントがどっちつかずの施設は良くないと思ってて、普段はスポーツ施設であるがうまく使えばイベントも開催できるというような可能性を聞き出せたらいいのかなと思う。

⇒ J V：補足として、1点目は、神奈川のKアリーナはステージやスピーカーが備え付いており、設営撤去の手間が省け、スタッフの人手不足もあり、事業者からは評判がいいと聞いている。事業者は人件費がかからない分、会場使用料を高く設定し運営しており、今回5,000席の施設においてもそういう使い方の需要があるのかないかを調査する。2点目は、P3にあるアリーナの事例で、横浜BUNTAIのように見切り席が少ないU型、あるいは扇形の観覧席を採用すれば5,000席に近い興行ができるのではないかな等も聞き出していく。

<原田AD>

・SAGAアリーナも初回の検討会で床の形状の議論が出た。その時に土間コンクリートという結論になり、現在約8,400席程の規模で土日はすべて予約で埋まっているという状況。今回の県民体育館では、多目的型がとても理想的に感じていて、よさこいの雨天時の会場にもなり、Dリーグにおいても使用可能。全国的にもアリーナは進化している。横浜BUNTAIを発展させたようなアリーナができれば理想的。床は土間コンクリートで大型トラックが会場に入れるようにするイメージ。

<古谷委員>

・経済団体の会合で、高知県は全国大会の誘致が難しいと言われ、今までは複数の会場に分散させて開催してきた。宿泊施設も少ないと言われていたが、ホテルの開発が進んでおり、宿泊施設の懸念は解消される。大規模な会場はアクセスも重要で、現状は規模や設備においても全国のトレンドに遅れている。香川のアリーナはいい事例。アリーナができると「まち」が変わる。県民体育館においても高知駅から電車で一本。若い人は歩いて来れるため県民の期待値は高い。全国には高知に来たことがない人はたくさんいるので県外からの来客も視野に入る。よさこいの会場としても雨天の懸念を解消できる。

<宮地氏>

・スポーツでいうと、高知ユナイテッドSCができ、高知にJリーグチームができた。Jリーグに上がって思うことは、この景色はないときには誰も想像ができない。Bリーグをつくるとなると今の県民は想像ができないのが現状。ただ観光の観点では、来場者は日帰りが予想されていたが、実際には前泊や後泊、観光をする人が多くて経済効果はかなりあると聞いている。Bリーグにおいても経済効果は期待できる。

・MICEに関しては、今度経済同友会の全国大会が高知であるが、会場は飲食ができるエリアが近くにあることが好ましく、県民体育館が規模をクリアできたとしても飲食店が離れ過ぎて利用できない。

<寛藤委員>

- ・委員のみなさんのおっしゃるとおり。いかに人を外から呼ぶかが重要。

(候補地調査)

<宮地氏>

- ・用途地域については高知市の意見等はあるのか
⇒県：面積や高さが決まってくると高知市と協議していく。

<坂本委員>

- ・確率によって浸水想定は変わるので、このあたりを基礎データで整理すれば、床高などの決定に有効な議論ができるのではと思う。

<丸副委員長>

- ・「騒音」は用途地域で基準は違うのか？
⇒J V：明確な基準はない。設備の設計と実際問題では比較は難しい。関連してというと、室内の騒音は建築で解決策はあるが、イベント開催の場合、屋外にも人が滞留し、話し声等の騒音が発生する。その人が滞留する空間の配置というのが検討のポイントになると考えている。

<丸副委員長⇒玉乃井委員>

- ・音漏れを聞きに来るファンの状況は。
⇒玉乃井委員：直近でいうとあなぶきアリーナ香川はサザンのコンサートの際、音漏れは少なかった。県民体育館でコンサートをした際には、音漏れよりは、トラックや設営撤去の作業音が大きいのので、そこに注意して作業した。今回の計画においてもトラックの搬入搬出の場所が重要かと思う。

<原田AD>

- ・5,000人規模は決定か。SAGAアリーナは当初5,000席であったが、知事から10,000席の意見があった。防災の観点からも、法的備蓄や避難所のことを考えると8,000席ぐらいの規模の方が安心感があるのではないかと議論の余地があるならば検討してみてもどうか。
⇒県：5,000席というのは去年のあり方検討会で方向性が示されたところであるが、ただ規模に関しては、議論や調査の中で変動はあると考えているので、柔軟に対応する。

<前田委員長>

- ・現状、テナントや飲食店のような機能は商業地域にしか入れられないのか。
⇒J V：用途地域については敷地の過半の状況に左右されるので現状の用途地域では

アリーナは建設できない。特例や用途地域の変更になるが、その中でテナントを盛り込むことは可能。

(武道館を含めた再整備)

<刈谷委員>

・集約化パターンについて、大会規模によって控え室等の必要な数が変わる。調査や議論によって慎重に検討すべき。

<寛藤委員>

・武道館は約50年前、駐車場が十分に確保できないとわかっていながら県に要望し建設した経緯がある。四国の中でも県立の武道館が一つしかないのは高知県だけ。武道は競技人口は減ってきているが、現状の武道館は利用率が高いので今回の再整備で武道施設が建設できれば協会としてもありがたい。

<前田委員長>

・武道館の再整備の経緯の説明をお願いしたい。

⇒県：現状の武道館は四国大会規模の開催は可能だが、全国大会規模になると、春野や県民体育館のように武道館以外の施設で実施している。15ページのパターン3や6のように武道の試合機能を持たせた施設を整備することで、四国大会規模は武道施設で開催し、それ以上になるとメインアリーナやサブアリーナを利用して開催することが可能になる。今年の6月議会では、今は使用されていない南中・高校体育館の整備工事に係る設計委託の補正予算が承認され、体育館1階の武道施設の貸し出しに向けて進めていく。今のスケジュールでは県民体育館が令和9年度に解体になるため、使用できない期間の代替施設という狙い。

<宮地氏>

・武道館とプールでは議論のボリュームが違うと思うが、いかがか。

⇒県：武道館は大会等の競技であるが、県民体育館のプールにおいては競技ではなく日常利用。プールに関しては、現有地に整備するのか、他のプールと集約化するのか、民間プールの活用をするのか、いろんな方面から検討していく。

<原田AD>

・①部活動の地域移行について、高知県の状況は。

・②日常使いのプールは民間移行が主流。あえて新たに日常使いのプールを整備する必要があるのか。私としては必要ないと思う。民間に移行し産業、ビジネスの活性化を盛んにしていく方が時代に合っている。

⇒県：①中学校の部活動が地域移行していくというのが国の大きな動き。土日も含めた完全移行までは達成できていない。移行しても受け皿がないので、指導者を育成する等の環境づくりに力を入れている。今後も教育委員会と連携し進めていく。

②現在県民体育館のプールは年間約5万人が利用し、高知市のプールも同様。さまざまな方面から検討して判断したい。

<前田委員長>

- ・ 次回の第2回に今回の調査の結果や情報が共有されることになるか。
⇒ 県：9月3日の第2回までは時間が開くので、情報が整理でき次第、委員のみなさまに共有する。検討会は年間通してタイトなスケジュールのため情報は事前に共有し議論を進めていただく。

<玉乃井委員>

- ・ 県民体育館でコンサートを開催する際は、プールの利用を停止した。県民体育館はプールの利用者が多いので残してほしいという意見は出ると思う。
- ・ 駐車場はコンサートの観点で言うと必要最低限でいい。中途半端に整備するよりも施設の規模を大きくした方がいい。

<丸副委員長>

- ・ 評価指標に子育て支援等はいれなくていいか。
⇒ J V：③の収益化の余地や⑧のマルチ対応の可能性で想定している。最近猛暑により室内のキッズスペースの需要があるので、施設の余剰スペースができたときには検討可能。具体化できるように資料を修正する。

3 先進地視察の報告（あなぶきアリーナ香川）

（全体を通して）

<古谷委員>

- ・ 1人の県民として、①旧南消防署②アスパルこうち③図書館についても巻き込み、高知市と連携し1つの大きな敷地として整備できないか。
⇒ 県：規模を検証し、足りないとの判断が出た場合、高知市に協議することは了承済。まずは規模の検討を行う。

<前田委員長>

これまでの修正事項等は改めて報告いただけるのか

- ⇒ 県：修正し、委員長に一任という形で共有させていただく。

4 閉会

第2回の検討会を9月3日（水）午後を開催することを周知